

ルスに変異した場合、その症状の程度は、現在のところ予測することが困難です。

(参照、感染研、インフルエンザ・パンデミックに関する Q&A、5)

III-4 新型インフルエンザにかかったかどうか、どうしたらわかりますか。

現在、新型インフルエンザは発生しておらず、その臨床症状の詳細については予測することが困難です。しかし、将来的には新たに出現した新型インフルエンザにかかった患者のが出現した場合臨床症状を調べることによって、特定の臨床症状は明らかになります。したがって、そのような特定の症状がある場合には、医療機関を受診し、専門的な検査を受けることとなります。厚生労働省では、その検査法について、研究開発を進めています。

III-5 新型インフルエンザの治療法はあるのですか。

新型インフルエンザに対しても、通常のインフルエンザの治療に使われている抗インフルエンザウイルス薬が有効であると考えられています。おり、今回の行動計画では、2500万人分の抗インフルエンザウイルス薬を備蓄することとしました。抗インフルエンザウイルス薬については、本Q&A第IV章で詳細に扱っております。また、Q&AIII-1にあるようにワクチンも開発中です。治療薬、治療方法について、最新の知見が発表され次第、情報提供し、国がとるべきしかるべき対応策について公表してまいります。

(参照、感染研、インフルエンザ・パンデミックに関する Q&A、13、行動計画 II-1-5)

VI. 抗インフルエンザウイルス薬について

VI-1 抗インフルエンザウイルス薬はどのようなものがあるのですか。

新型インフルエンザの治療薬としては、毎年流行する通常インフルエンザの治療に用いられているノイラミニダーゼ阻害薬が有効であると考えられています。ノイラミニダーゼ阻害薬には、経口内服薬のリン酸オセルタミビル（商品名：タミフル）と経口吸入薬のザナミビル水和物（商品名：リレンザ）があります。

VI-2 抗インフルエンザウイルス薬はどのくらい備蓄しているのですか。

新型インフルエンザの発生に備えて、政府及び各都道府県では抗インフルエンザウイルス薬の備蓄を行っています。

治療薬として、タミフルを政府で1,050万人分、都道府県で1,050万人分、流通備蓄が400万人分の合計2,500万人分、リレンザを政府で60万人分を確保する予定です。（平成19年度中に終了の見込み）

（流通備蓄は、通常インフルエンザのシーズン終了時の残存見込み量）

また、予防投与用として、タミフルを政府で300万人分備蓄しています。

(参照、行動計画 Q&A、II-1-5、P7)

VI-3 タミフル服用後の異常行動が報道されていますが、高病原性鳥インフルエンザや新型インフルエンザにおいても、10歳以上の未成年の患者に対する抗インフルエンザウイルス薬の投与を控えるのですか。

現在、高病原性鳥インフルエンザ患者の死亡率は約60%と高く、新型インフルエンザ患者の死亡率も通常のインフルエンザと比べて、高くなることが考えられています。そのため、高病原性鳥インフルエンザや新型インフルエンザの治療においては、原則的に10歳以上の未成年の患者に対してもタミフルの投与を控えることはありません。

実際には、発生した新型インフルエンザの重篤度や感染状況と、タミフルの有効性や安全性に関する情報から総合的に判断することになります。

(参照、感染研、インフルエンザ・パンデミックに関するQ&A、10)

[参考]

1. タミフルの添付文書は、医療用医薬品の添付文書情報（検索ページ）
(http://www.info.pmda.go.jp/psearch/html/menu_tenpu_base.html) の「一般名・販売名」に「タミフル」と入力し、[検索実行] ボタンをクリックすることにより入手できます。
2. タミフルの「くすりのしおり」(医師や薬剤師などの医療提供者から患者さんに、その「くすり」の概要を説明する際の補助資料です。)は、くすりの適正使用協議会のウェブサイト
(<http://www.rad-ar.or.jp/siori/kensaku.html>) で、検索・入手できます。
3. タミフルのインタビューフォーム (医療用医薬品添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な医薬品の適正使用や評価のための情報あるいは薬剤情報提供の裏付けとなる情報等が集約された総合的な医薬品解説書です。日本病院薬剤師会が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼しているものです。)は、中外製薬株式会社ウェブサイトの「医療関係者向け情報」
(<http://www.chugai-pharm.co.jp/hc/di>) で、検索・入手できます。
4. 「インフルエンザ脳症ガイドライン」(厚生労働省 新興・再興感染症「インフルエンザ脳症の発症因子の解明と治療及び予防方法の確立に関する研究」班作成)は、
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/med/ped/pedhome.html> で入手できます。

V. 問い合わせ先

V-1 新型インフルエンザについて、わからないことはどこに問い合わせればよいのですか。

新型インフルエンザ等に関する情報は、厚生労働省のホームページを随時更新する予定です。なお、ご不明な点につきましては、厚生労働省健康局結核感染症課（電話03-5253-1111）にお問い合わせください。

(2007.12.05 バムサ 安居院 加筆修正)

資料 3

新型インフルエンザに関するQ&A

平成17年11月15日

(同年11月30日改訂)
(同年12月15日改訂)
(平成18年1月27日改訂)
(平成18年7月10日改訂)
(平成18年11月1日改訂)
(平成18年11月10日改訂)
(平成19年4月19日改訂)
(平成19年12月XX日改定)

各方面の意見を取り入れ、Q&A を更に改訂しました。このままホームページに掲載する予定です。
御意見あらば12月25日までにお知らせください。

蛭川

はじめに

新型インフルエンザウイルスとは、通常は異種間感染しにくい動物、特に鳥類のインフルエンザウイルスがヒトに感染し、ヒトの体内で増えることができるように変化し、ヒトからヒトへと効率よく感染できるようになったもので、このウイルスが感染して起こる疾患が新型インフルエンザです。

新型インフルエンザウイルスはいつ出現するのか、誰にも予測することはできません。人間界にとっては未知のウイルスでほとんどのヒトは免疫を持っていませんので、これは容易にヒトからヒトへ感染して広がり、急速な世界的大流行（パンデミック）を起こす危険性があります。

このような例の一つとしてスペインインフルエンザ（1918年-1919年）があります。世界では人口の25～30%が罹患し、4000万人が死亡したと推計されており、日本では2300万人が感染し、39万人が死亡したと記録されています。その記録から、新型インフルエンザの大流行が起こると多くの人が感染し、医療機関は患者であふれかえり、国民生活や社会機能の維持に必要な人材の確保が困難になるなど、様々な問題が生じることが考えられています。

そのためWHO（世界保健機関）では、平成11年（1999年）インフルエンザパンデミック計画を発行し、平成17年（2005年）には、世界インフルエンザ事前対策計画が改訂され、WHOおよび各国の対応が示されました。

我が国においても、内閣官房を中心に関係省庁からなる「新型インフルエンザ及び鳥インフルエンザに関する関係省庁対策会議」が設置され、平成17年11月に「新型インフルエンザ対策行動計画」が取りまとめられました。また、新型インフルエンザ対策専門家会議において、2007年（平成19年）3月には「新型インフルエンザ対策ガイドライン（フェーズ4以降）」が取りまとめられました。

この「新型インフルエンザに関するQ&A」は、国民の皆様が新型インフルエンザについて正確に理解し、発生前から必要な準備を進め、実際に発生した場合に対し冷静適切に対応するための助けとできるようになることを目的に作成しています。国民の皆様の新型インフルエンザについて理解がより一層深まることを期待しております。

お問い合わせの多い質問

I. 新型インフルエンザの流行

- I-1 新型インフルエンザとは何ですか。
- I-2 これまでに新型インフルエンザの流行はありましたか。
- I-3 なぜ、新型インフルエンザの世界的流行（パンデミック）の可能性が指摘されているのですか。
- I-4 新型インフルエンザの世界的な流行（パンデミック）を阻止することはできないのですか。
- I-5 新型インフルエンザが全国的に流行した場合に、どのくらいの人が感染すると予測されるのですか。
- I-6 国は新型インフルエンザの流行に対してどのような準備をしているのですか。また、流行した場合、どのような対策をとるのですか。
- I-7 国は新型インフルエンザが流行した場合、どのような対策をとるのですか。

II. 鳥インフルエンザと新型インフルエンザ

- II-1 鳥インフルエンザ、高病原性鳥インフルエンザとはどのような病気ですか。新型インフルエンザ、鳥インフルエンザ、インフルエンザ、普通のかぜはどう違うのですか。
- II-2 鳥インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザ）ウイルスがヒトに感染した例はありますか。
- II-3 鶏肉や鶏卵を食べて、鳥インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザ）に感染することはありますか。
- ~~II-4 鳥インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザ）と新型インフルエンザとはどのような関連があるのですか。~~

III. 国民ひとりひとりの予防と対応

- III-1 通常のインフルエンザの予防接種は、新型インフルエンザにワクチンは効きますか効果がありますか。
- III-2 政府が備蓄しているワクチンの接種を受けることはできますか。
- III-3 新型インフルエンザの予防はどうしたらよいのですか。
- III-4 新型インフルエンザに感染した場合、どのような症状がでるのですか。
- ~~III-5 新型インフルエンザにかかったかどうか、どうしたらわかりますか。~~
- III-~~5~~6 新型インフルエンザの治療法はあるのですか。
- III-6 新型インフルエンザが発生したらどうしたらよいのですか。

VI. 抗インフルエンザウイルス薬について

- IV-1 抗インフルエンザウイルス薬はどのようなものがあるのですか。
- IV-2 抗インフルエンザウイルス薬はどのくらい備蓄しているのですか。
- IV-3 タミフル服用後の異常行動が報道されていますが、鳥インフルエンザや新型インフルエンザにおいても、10歳以上の未成年の患者に対する抗インフルエンザウイルス薬の投与を控えるのですか。

V. 問い合わせ先

V-1 新型インフルエンザについて、わからないことはどこに問い合わせればよいのですか

I. 新型インフルエンザの流行

I-1 新型インフルエンザとは何ですか。

新型インフルエンザウイルスとは、動物、特に鳥類のインフルエンザウイルスがヒトに感染し、ヒトの体内で増えることができるように変化し、ヒトからヒトへと効率よく感染できるようになったもので、このウイルスが感染して起こる疾患が新型インフルエンザです。

新型インフルエンザウイルスはいつ出現するのか、誰にも予測することはできません。人間界にとっては未知のウイルスでほとんどのヒトは免疫を持っていませんので、これは容易にヒトからヒトへ感染して広がり、急速な世界的大流行（パンデミック）を起こす危険性があります。
インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。インフルエンザウイルスには多くの変異型があり、ヒトだけでなく、他の動物も感染します。通常人に感染するインフルエンザウイルスは、ヒトからヒトへとといった同種の間で感染するものです。
—しかし、インフルエンザウイルスはその性質を変える（変異という）ことによって、これまでにヒトに感染しなかったインフルエンザウイルスが、ヒトに感染するようになり、さらにヒトからヒトへ感染するようになることがあります。この変異したインフルエンザウイルスのことを新型インフルエンザウイルスといい、そのウイルスによって起こるインフルエンザを新型インフルエンザといいます。

—(参照、感染研、インフルエンザ・パンデミックに関するQ&A、1)

I-2 これまでに新型インフルエンザの流行はありましたか。

これまで新型インフルエンザとして（調整官）、大正7年（1918年）に「スペインインフルエンザ」、昭和32年（1957年）に「アジアインフルエンザ」、昭和43年（1968年）に「香港インフルエンザ」、昭和52年（1977年）に「ソ連インフルエンザ」が流行しています。これらはいずれも世界的に流行し、時に多くの死亡者（たとえば、「スペインインフルエンザ」において、世界では約4,000万人、わが国では約39万人が死亡）を出しました。こうした「新型インフルエンザ」は、10年から40年の周期で流行してきましたが、しかし、次の新型インフルエンザウイルスがいつ出現するのか、予測することはできません。なおまた、過去の例を見ても、流行の季節は冬とは限りません。

（注：これまで一般に、スペインかぜ、アジアかぜ、香港かぜ、ソ連かぜと表記してきたものについては、本資料では、それぞれ、スペインインフルエンザ、アジアインフルエンザ、香港インフルエンザ、ソ連インフルエンザと表記しています。）

（参照、感染研、インフルエンザ・パンデミックに関するQ&A、2、3）

I-3 なぜ、新型インフルエンザの世界的流行（パンデミック）の可能性が指摘されているのですか。

I-2に記載があるように、ヒトからヒトへ感染する新型インフルエンザの世界的流行は10年から40年程度の数十年周期で起こるとされていますが、この数十年間は発生がありません。

さらに、現在アメリカ大陸を除いて地球規模で発生している高病原性鳥インフルエンザのウイルスが、ヒトの社会に定着し、新型インフルエンザウイルスに変異することが懸念されています。これらの理由から、新型インフルエンザの世界的流行の可能性が示唆されています。

新型インフルエンザがもし発生した場合、基本的にすべての人がそのウイルスに対して抵抗力（免疫）をもっていないと考えられます。そのために新型インフルエンザはヒトの間で、広範にかつ急速に拡がると考えられます。さらに、人口の増加や都市への人口集中、飛行機などの高速大量交通機関の発達などから、短期間に地球全体にまん延すると考えられます。この世界的流行をパンデミックといいます。

ただし、新型インフルエンザウイルスがどのくらい強い感染力をもつのかについては、現段階では予測できません。

(参照、感染研、インフルエンザ・パンデミックに関する Q&A、7、インフルエンザ Q&A (医療従事者)40, 41)

I-4 新型インフルエンザの世界的流行（パンデミック）を阻止することはできないのですか。

パンデミックを阻止することは非常に困難であると考えられていますが、しかし、最近の研究では、新型インフルエンザの発生が初期段階で、その範囲が限られている場合においては、抗インフルエンザウイルス薬の内服と移動制限を行うことで、流行の拡大を遅らせ、その間に次の対策（新型インフルエンザワクチンの開発等）を講じることができるのではないかと言われています。しかし、これまで世界中で経験がないことなので、どの程度成功するかは分かりません未知数です。初めて発生する地域で、その発生をいかに早期に発見し、適切な対策をとるかが大切です。

わが国の対策については、「新型インフルエンザ対策行動計画」に示されています。

(参照、インフルエンザ・パンデミックに関する Q&A、16、新型インフルエンザ対策行動計画に関する Q&A)

I-5 新型インフルエンザが全国的に流行した場合に、どのくらいの人が感染すると予測されるのですか。

米国疾病管理センターの計算式に日本をあてはめると、新型インフルエンザが全国的に流行した場合、人口の約1/4の人が感染すると予想され、医療機関を受診する患者数は最大で2500万人と推定されています。過去に流行したアジアインフルエンザとスペインインフルエンザのデータを基にした推計から、入院患者は53万人～200万人、死亡者は17万人～64万人と推定されています。

日本政府は人口の約1/4の人が感染し、医療機関を受診する患者数は最大で2500万人と仮定して、対策を講じています。

また、過去に流行したアジアインフルエンザやスペインインフルエンザのデータに基づき推計すると、入院患者は53万人～200万人、死亡者は17万人～64万人と推定されています。しかし、これらはあくまでも過去の流行状況に基づいて推計されたものであり、今後発生するかも知れない新型インフルエンザが、どの程度の感染力や病原性を持つかどうかは不明です。

これ以上の被害が生じる可能性を否定できない一方、より少ない被害でとどまる可能性もありますので、実際の発生状況に応じて柔軟な対応がとれるように準備しておく必要があります。

(参照、行動計画、流行規模の想定 P4)

I-6 国は新型インフルエンザの流行に対してどのような準備をしているのですか。また、~~流行した場合、どのような対策をとるのですか。~~

厚生労働省では、平成17年10月、国民への正確な情報の提供、予防や治療など、その流行状況に応じた対策を総合的に推進するため、厚生労働大臣を本部長とする「新型インフルエンザ対策推進本部」を設置しました。同時に、政府の関係省庁間の会議によりレベルでは、「新型インフルエンザ対策行動計画」を策定し、新型インフルエンザの発生状況に合わせた具体的な対策を講じることとしています。

現時点での政府がとっている準備として、抗インフルエンザウイルス薬や鳥インフルエンザ(H5N1)に対するワクチン(プレパネミックワクチン)の備蓄、国民への情報提供、鳥インフルエンザが流行している地域への技術支援、新型インフルエンザ発生シミュレーション訓練等が挙げられます。

~~具体的な対策の内容として、新型インフルエンザの発生が確認された時点で総理大臣を本部長とした対策本部を設立し、状況に応じて医療体制の整備、感染まん延の防止策、不特定多数の集まる活動の自粛勧告、新型インフルエンザの症状の見られた者の出勤停止、受診勧告等の対策を講じることとなっています。~~

(参照、感染研、インフルエンザ・パンデミックに関するQ&A、17、 行動計画 背景 P2、行動計画 Q1～5)

I-7 国は新型インフルエンザが流行した場合、どのような対策をとるのですか。

新型インフルエンザの発生が確認された時点で総理大臣を本部長とした対策本部を設立し、状況に応じて検疫の強化、医療体制の整備、感染まん延の防止策、不要不急の外出の自粛要請、多数が集まる活動の自粛要請、新型インフルエンザ患者への入院勧告等の対策を講じることとなっています。

II. 新型インフルエンザと鳥インフルエンザ

II-1 新型インフルエンザ、鳥インフルエンザ、インフルエンザ、普通のかぜはどう違うのですか。鳥インフルエンザ、高病原性鳥インフルエンザとはどのような病気ですか。

普通のかぜの症状は、のどの痛み、鼻汁、くしゃみや咳(せき)などが中心で、全身症状はあまり見られません。発熱もインフルエンザほど高くなく、重症化することはほとんどありません。

一方、毎年冬を中心に流行するインフルエンザの場合は38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が強く、あわせて普通のかぜと同様の、のどの痛み、鼻汁などの症状も見られます。さらに、気管支炎、肺炎、小児では中耳炎、熱性けいれんなどを併発し、重症化することがあるのもインフルエンザの特徴です。

インフルエンザの原因となるインフルエンザウイルスには、様々な種類があり、自然界においてヒト以外の動物、特にカモ、アヒルなどの水鳥を中心とした多くの鳥類に感染しています。インフルエンザウイルスが感染している鳥類の多くは症状はありませんが、他の鳥類に感染して症状が出た場合、それを鳥インフルエンザといいます。それを鳥インフルエンザといいます。また、鳥インフルエンザのなかでも、ニワトリ、アヒルなどが死亡してしまう重篤な症状をきたすものを高病原性鳥インフルエンザといいます。その原因となるウイルスは高病原性鳥インフルエンザ

~~ザウイルスといわれています。~~

新型インフルエンザウイルスとは、従来はヒトに感染することがなかった鳥インフルエンザウイルス等がヒトに感染し、ヒトの体内で増えることができるように変化し、ヒトからヒトへと効率よく感染できるようになったものを指します。このウイルスが感染して起こる疾患が新型インフルエンザです。現時点で、こうした性質を持つ新型インフルエンザの発生は確認されていません。

鳥インフルエンザおよび高病原性鳥インフルエンザについては国立感染症研究所情報センターホームページ（URL；<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）を参照ください。

（参照、感染研、インフルエンザ・パンデミックに関する Q&A、4，鳥インフルエンザに関する Q&A、1）

II-2 鳥インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザ）ウイルスがヒトに感染した例はありますか。

通常、ヒトは鳥インフルエンザウイルスには、通常ヒトに感染することはありません。しかし、ヒトが高病原性鳥インフルエンザウイルス感染による病鳥や死鳥の血液や排泄物に濃厚に接触した場合や、これら血液や排泄物から生じた飛沫を大量に吸引した場合には、その確率は低いですが感染したと考えられる例が報告されていますことがあります。近年、図1のように、ヒトにおける高病原性鳥インフルエンザ発症事例が報告されています。これまで、タイ、ベトナム、インドネシアなど東南アジアを中心に、335人が発症、206人の死亡者がでています（2007年11月12日現在）。

（参照、感染研、鳥インフルエンザに関する Q&A、2，3，4）

II-3 鶏肉や鶏卵を食べて、鳥インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザ）に感染することはありますか。

~~鳥インフルエンザについては、これまで、鶏肉や鶏卵を食べることによって、ヒトに感染したという事例の報告はありません。このため、食品衛生の観点からは、鶏卵や鶏肉について特段の措置は必要ないものと考えられます。~~

~~また、食品安全委員会も、平成16年3月に、わが国の現状において、鶏肉や鶏卵は「安全」とする見解を示しています。詳細は、（食品安全委員会ホームページの鳥インフルエンザ Q&A (<http://www.fsc.go.jp/sonota/tori1603.html>) をご参照ください。~~

ただしなお、WHO（世界保健機関）は、鶏などの家きん類に鳥インフルエンザが集団発生している地域（東南アジア等）では、鶏肉や鶏卵を含む、家きん類の肉及び家きん類由来製品の扱いについて、以下のように勧告しているため、特に海外においては留意する必要があります。鶏肉や鶏卵を含む、家きん類の肉及び家きん類由来製品について、食中毒予防の観点からも、十分な加熱調理（全ての部分が70℃に到達すること）及び適切な取扱いが重要であるとの見解を示しています。

1) 食品のすべての部分が70℃以上になるような通常の加熱調理（肉であればピンク色の部分がないこと、卵であれば固まっていること）においてH5N1亜型の鳥インフルエンザウイルスは死滅するので、適切に調理された鶏肉は安全です。このウイルスは冷凍や冷蔵では死にません。

2) 卵は外側にも内側にもH5N1ウイルスがある可能性がありますので、家禽における流行がある地域で

は、生あるいは半生調理の卵は食べるべきではありません。

3) これまで適切に加熱調理された家禽肉や卵を食べて H5N1 に感染したことを示唆する証拠はありません。

H-4 新型インフルエンザと鳥インフルエンザ（高病原性鳥インフルエンザ）とはどのような関連があるのですか。

—カモなどの野生の水鳥が保有している鳥インフルエンザウイルスが、ヒトからヒトへ感染する新型インフルエンザになると考えられています。鳥インフルエンザウイルスがヒトに感染性を示すようになるには、2つの仕組みがあります。

—ひとつの仕組みは、鳥インフルエンザウイルスがヒトや鳥類の体内で変異し、ヒトからヒトへ感染するウイルス（新型インフルエンザウイルス）になることです。もうひとつの仕組みは、ヒトやブタに、ヒトのインフルエンザウイルスと鳥インフルエンザウイルスが同時に感染し、それぞれが混ざり合い、ヒトからヒトへ感染する新型インフルエンザウイルスになることです。

—（参照、感染研、インフルエンザ・パンデミックに関する Q&A、4）

III. 国民ひとりひとりの予防と対応

III-1 通常のインフルエンザの予防接種（ワクチン接種）は、新型インフルエンザにワクチンは効きますか効果がありますか。

通常のインフルエンザの予防接種は、新型インフルエンザとはウイルスの種類が異なるため、感染防止の効果は期待できないと考えられています。

新型インフルエンザに対して効果が期待できるワクチンとして、プレパンデミックワクチンとパンデミックワクチンがあります。

プレパンデミックワクチンとは、新型インフルエンザウイルスが大流行（パンデミック）を起こす以前に、トリ—ヒト感染の患者または鳥から分離されたウイルスを基に製造されるワクチンを指します。また、政府は現在流行している鳥インフルエンザウイルス（H5N1）に対するワクチンをプレパンデミックワクチンとして製造、備蓄しています。このワクチンは、新型インフルエンザに対して一定の有効性が期待されますが、新型インフルエンザウイルスとは異なるウイルスに対するワクチンですので、十分な効果が得られない可能性もあります。

パンデミックワクチンとは、ヒト—ヒト感染を生じたウイルスを基に製造されるワクチンです。プレパンデミックワクチンと異なり、ヒトの間で実際に流行しているウイルスに対するワクチンですので、ワクチンの効果はより高いと考えられます。ただし、パンデミックワクチンは実際に新型インフルエンザが発生しなければ製造できないため、現時点で製造、備蓄は行えません。

—すなわち、新型インフルエンザのヒト—ヒト感染が起きた場合、予防手段として有効性が完全に確かめられているワクチンは現時点ではありません。新型インフルエンザに最も有効なワクチンの製造には、新型のウイルスが確認されてから、少なくとも6ヶ月はかかるとされています。現在、日本を含め世界の各国で新型インフルエンザのウイルスに対して効果を発揮するワクチンの早期実用化に向けた開発努力が展開されています。

（参照、感染研、インフルエンザ・パンデミックに関する Q&A、10、11、12）

III-2 政府が備蓄しているワクチンの接種を受けることはできますか。

現在、政府は1,000万人分のプレパンドミックワクチンを備蓄していますが、政府が備蓄しているプレパンドミックワクチンは、現在の流行している鳥インフルエンザに対するワクチンで、新型インフルエンザに対する有効性が完全に確立しているものではありません。また、予防接種では一定の割合で人体に有害な副反応が出現することが避けられず、不必要な接種は避けるべきだと考えられています。そのため、実際にワクチン接種を開始するのは、新型インフルエンザの発生出現が確認されてからとなる予定です。

また、新型インフルエンザが発生した場合、予防の基本は他者から感染を受ける機会を減らす（外出や集会を避ける、手洗いの励行、マスク着用等、III-3参照）こととなりますが、医療従事者や電気・水道等のライフライン従事者など、医療や社会生活の維持に関わっており、新型インフルエンザの感染が拡大している状況においても業務を続けなければならない方々から、プレパンドミックワクチンの接種を行うことを予定しています。

なお、実際に発生した新型インフルエンザウイルスを基に製造されるパンドミックワクチンは、国民全員に行き渡る量を製造します。

現在のワクチンの備蓄量は1,000万人分であり、接種を開始する場合は、医療従事者や電気・水道等のライフライン従事者など、医療や社会生活の維持に関わる方々から接種を行う可能性のあることをご理解いただきたいと思います。

III-3 新型インフルエンザの予防はどうしたらよいのですか。

通常のインフルエンザは、感染した人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫とともに放出されたウイルスを吸入することによって感染します。そのため、外出後のうがいや手洗い、マスクの着用、流行地への渡航、人混みや繁華街への外出を控えること（不要不急の外出の自粛）が重要です。また、十分に休養をとり、体力や抵抗力を高め、日頃からバランスよく栄養をとることも大切です。

さらに、インフルエンザに感染して症状のある人は、病気の悪化や周囲への感染を防ぐために、自宅で休養することが重要です。他人に接しなければならぬ場合は、咳やくしゃみをする際にはティッシュで口元を覆うか、マスクを着用することが重要です（咳エチケット）。

現状では新型インフルエンザは出現していませんが、出現した場合も通常のインフルエンザと同様にこのような感染予防対策に努めることが重要です。また、新型インフルエンザが流行して、外出を避けるべき事態となり、物資の流通が停滞することを想定して、普段から食料品や日用品を備蓄しておくことが望ましいと考えられます。

また、新型インフルエンザの患者と密に接する機会があり、感染している可能性がある方々に対しては、発症前に抗インフルエンザ薬を内服することで、発症の危険性を抑える予防方法（予防投薬）を実施することも検討されています。

（参照、感染研、インフルエンザ・パンドミックに関するQ&A、10）

III-4 新型インフルエンザに感染した場合、どのような症状がでるのですか。

新型インフルエンザに変異することが懸念されている高病原性鳥インフルエンザの症状としては、これまで東南アジアなどでの事例では、発熱、咳など、ヒトの一般的なインフルエンザと同様の症状に加え、60%以上の感染者に下痢を認めた例もありが認められました。また、致死率は60%以上と極めて高く、肺炎が主な死因となっています。結膜炎、呼吸器症状や、多臓器不全に

~~至る重症なものまで様々な症状がみられ、死亡の主な原因は肺炎でした。~~

しかし、高病原性インフルエンザウイルスがヒトからヒトへ感染する新型インフルエンザウイルスに変異した場合、その症状の程度は、現在のところ予測することが困難です。

(参照、感染研、インフルエンザ・パンデミックに関する Q&A、5)

~~III-5 新型インフルエンザにかかったかどうか、調べることはできますか。~~

~~現在、新型インフルエンザは発生しておらず、その臨床症状の詳細については予測することが困難です。しかし、将来的には新たに出現した新型インフルエンザにかかった患者の症状を調べることによって、特定の臨床症状は明らかになります。そのような特定の症状がある場合には、医療機関を受診し、専門的な検査を受けることとなります。~~

~~厚生労働省では、その他のより簡便な検査法等について、研究開発を進めています。~~

III-5-6 新型インフルエンザの治療法はあるのですか。

インフルエンザの治療に使われている抗インフルエンザウイルス薬が有効であると考えられています。抗インフルエンザウイルス薬については、本 Q&A 第 IV 章で詳細に扱っております。また、予防のために III-1 にあるようにワクチンも備蓄開発中です。

治療薬、治療方法について、最新の知見が発表され次第、厚労省の H P や記者会見などで広く情報提供し、国がとるべきしかるべき対応策について公表してまいります。

(参照、感染研、インフルエンザ・パンデミックに関する Q&A、13、行動計画 II-1-5)

III-6 新型インフルエンザが発生したらどうしたらよいのですか。

新型インフルエンザが発生した場合は、感染の機会を減らすために、手洗いを励行する、不要不急の外出や集会を避けるなど、III-3 で述べたような予防策を守ることが重要となります。

また、発熱・咳・全身痛などインフルエンザと思われる症状がある場合、事前連絡なく近くの医療機関を受診すると、万が一新型インフルエンザであった場合、待合室等で他の患者さんに感染させてしまう「二次感染」のおそれがあります。その場合はまず、保健所等に設置される予定の発熱相談センターに連絡し、都道府県等が指定する医療機関など（発熱外来）を受診して下さい。都道府県や、市町村、保健所から、情報が提供されますので、随時チェックをするようにしてください。

IV. 抗インフルエンザウイルス薬について

IV-1 抗インフルエンザウイルス薬はどのようなものがあるのですか。

新型インフルエンザの治療薬としては、毎年流行する通常インフルエンザの治療に用いられているノイラミニダーゼ阻害薬が有効であると考えられています。ノイラミニダーゼ阻害薬には、経口内服薬のリン酸オセルタミビル（商品名：タミフル）と経口吸入薬のザナミビル水和物（商品名：リレンザ）があります。

IV-2 抗インフルエンザウイルス薬はどのくらい備蓄しているのですか。

新型インフルエンザの発生に備えて、政府及び各都道府県では抗インフルエンザウイルス薬の

備蓄を行っています。

治療薬として、タミフルを政府で1,050万人分、都道府県で1,050万人分、流通備蓄が400万人分の合計2,500万人分、リレンザを政府で60万人分を確保する予定です。(平成19年度中に終了の見込み)

(流通備蓄は、通常インフルエンザのシーズン終了時の残存見込み量)

また、予防投与用として、タミフルを政府で300万人分備蓄しています。

(参照、行動計画 Q&A, II-1-5、P7)

IV-3 タミフル服用後の異常行動が報道されていますが、鳥インフルエンザや新型インフルエンザにおいても、10歳以上の未成年の患者に対する抗インフルエンザウイルス薬の投与を控えるのですか。

現在、高病原性鳥インフルエンザ患者の死亡率は約60%と高く、新型インフルエンザ患者の死亡率も通常のインフルエンザと比べて、高くなることが考えられています。そのため、高病原性鳥インフルエンザや新型インフルエンザにおいては、原則的に10歳以上の未成年の患者に対してもタミフルの投与を控える必要はないと考えられます。

実際には、発生した新型インフルエンザの重篤度や感染状況と、タミフルの有効性や安全性に関する情報から総合的に判断することになります。

(参照、感染研、インフルエンザ・パンデミックに関する Q&A、10)

V. 問い合わせ先

V-1 新型インフルエンザについて、わからないことはどこに問い合わせればよいのですか。

新型インフルエンザ等に関する情報は、厚生労働省のホームページを随時更新する予定です。なお、ご不明な点につきましては、以下の窓口にお問い合わせください。

インフルエンザ等感染症相談窓口

E-mail: influt@npo-bmsa.org

電話：03-3200-6784 FAX：03-3200-5209

[健康](#) > [感染症情報](#) > [新型インフルエンザ](#)[戻る](#)新型インフルエンザ
Pandemic flu

新型インフルエンザ対策関連情報(英語版はこちら)

新型インフルエンザに関するQ&A

平成17年11月15日

(同年11月30日改訂)

(同年12月15日改訂)

(平成18年1月27日改訂)

(平成18年7月10日改訂)

(平成18年11月1日改訂)

(平成18年11月10日改訂)

(平成19年4月19日改訂)

(平成19年12月26日改定)

新型インフルエンザウイルスとは、動物、特に鳥類のインフルエンザウイルスが人に感染し、人の体内で増えることができるようになり、人から人へと効率よく感染できるようになったもので、このウイルスが感染して起こる疾患が新型インフルエンザです。

新型インフルエンザウイルスはいつ出現するのか、誰にも予測することはできません。人間界にとっては未知のウイルスでほとんどの人は免疫を持っていませんので、これは容易に人から人へ感染して広がり、急速な世界的大流行(パンデミック)を起こす危険性があります。

過去の例の一つとしてスペインインフルエンザ(1918年～1919年)があります。世界では人口の25～30%が罹患し、4000万人が死亡したと推計されており、日本では2300万人が感染し、39万人が死亡したと記録されています。その記録から、新型インフルエンザの大流行が起こると多くの人々が感染し、医療機関は患者であふれかえり、国民生活や社会機能の維持に必要な人材の確保が困難になるなど、様々な問題が生じる可能性もあります。

そのためWHO(世界保健機関)では、平成11年(1999年)インフルエンザパンデミック計画を策定し、平成17年(2005年)には、世界インフルエンザ事前対策計画を改訂し、WHOおよび各国の対応を要請しました。

我が国においても、内閣官房を中心に関係省庁からなる「新型インフルエンザ及び鳥インフルエンザに関する関係省庁対策会議」が設置され、平成17年12月に「新型インフルエンザ対策行動計画」が取りまとめられました。また、新型インフルエンザ対策専門家会議において、2007年(平成19年)3月には「新型インフルエンザ対策ガイドライン(フェーズ4以降)」が取りまとめられました。

この「新型インフルエンザに関するQ&A」は、国民の皆様が新型インフルエンザについて正しく理解し、発生前から必要な準備を進め、実際に発生した場合に適切に対応するための手助けとなることを目的として作成しています。

I. 新型インフルエンザとは

- I-1 新型インフルエンザとは何ですか。
- I-2 新型インフルエンザ、鳥インフルエンザ、インフルエンザ、普通のかぜはどう違うのですか。
- I-3 これまでに新型インフルエンザの流行はありましたか。
- I-4 なぜ、新型インフルエンザの世界的流行(パンデミック)の可能性が指摘されているのですか。
- I-5 新型インフルエンザの世界的流行(パンデミック)を阻止することはできないのですか。
- I-6 新型インフルエンザが全国的に流行した場合に、どのくらいの人が感染すると予測されるのですか。

II. 国民ひとりひとりの予防と対応

- II-1 新型インフルエンザの予防はどうしたらよいのですか。
- II-2 新型インフルエンザに感染した場合、どのような症状がでるのですか。
- II-3 新型インフルエンザが発生したらどうしたらよいのですか。
- II-4 新型インフルエンザの治療法はあるのですか。

III. 国の対策について(ワクチン、抗インフルエンザウイルス薬を含む)

- III-1 国は新型インフルエンザの流行に対してどのような準備をしているのですか。
- III-2 国は新型インフルエンザが流行した場合、どのような対策をとるのですか。
- III-3 新型インフルエンザにワクチンは効きますか。
- III-4 政府が備蓄しているワクチンの接種を受けることはできますか。
- III-5 抗インフルエンザウイルス薬はどのようなものがあるのですか。
- III-6 抗インフルエンザウイルス薬はどのくらい備蓄しているのですか。
- III-7 タミフル服用後の異常行動が報道されていますが、鳥インフルエンザや新型インフルエンザにおいても、10歳以上の未成年の患者に対する抗インフルエンザウイルス薬の投与を控えるのですか。

IV. 問い合わせ先

- IV-1 新型インフルエンザについて、わからないことはどこに問い合わせればよいのですか。

I. 新型インフルエンザの流行

I-1 新型インフルエンザとは何ですか。

Answer

新型インフルエンザウイルスとは、動物、特に鳥類のインフルエンザウイルスが人に感染し、人の体内で増えることができるようになり、人から人へと効率よく感染できるようになったので、このウイルスが感染して起こる疾患が新型インフルエンザです。

新型インフルエンザウイルスはいつ出現するのか、誰にも予測することはできません。人間界にとっては未知のウイルスでほとんどのヒトは免疫を持っていませんので、これは容易に人から人へ感染して広がり、急速な世界的大流行(パンデミック)を起こす危険性があります。

現時点で、こうした性質を持つ新型インフルエンザの発生は確認されていません。

I-2 新型インフルエンザ、鳥インフルエンザ、インフルエンザ、普通のかぜはどう違うのですか。

Answer

普通のかぜの症状は、のどの痛み、鼻汁、くしゃみや咳(せき)などが中心で、全身症状はあまり見られません。発熱もインフルエンザほど高くなく、重症化することはほとんどありません。

一方、毎年冬を中心に流行するインフルエンザの場合は38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が強く、あわせて普通のかぜと同様の、のどの痛み、鼻汁などの症状も見られます。さらに、気管支炎、肺炎、小児では中耳炎、熱性けいれんなどを併発し、重症化することもあるのもインフルエンザの特徴です。

インフルエンザの原因となるインフルエンザウイルスには様々な種類があり、自然界においてヒト以外の動物、特にカモ、アヒルなどの水鳥を中心とした鳥類に感染しています。インフルエンザウイルスが感染している鳥類の多くは症状はありませんが、他の鳥類に感染して症状が出た場合、それを鳥インフルエンザといいます。また、鳥インフルエンザのなかでも、鳥類が死亡してしまう重篤な症状をきたすものを高病原性鳥インフルエンザといいます。

新型インフルエンザとは、I-1でも記したように、従来は人に感染することがなかった鳥インフルエンザウイルス等が人に感染し、人の体内で増えることができるようになり、人から人へと効率よく感染できるようになったウイルスによる疾患を指します。

鳥インフルエンザおよび高病原性鳥インフルエンザについては国立感染症研究所情報センターホームページ(URL:<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)を参照ください。

I-3 これまでに新型インフルエンザの流行はありましたか。

Answer

20世紀では、大正7年(1918年)に「スペインインフルエンザ」、昭和32年(1957年)に「アジアインフルエンザ」、昭和43年(1968年)に「香港インフルエンザ」、昭和52年(1977年)に「ソ連インフルエンザ」が流行しています。これらはいずれも世界的に流行し、時に多くの死亡者(たとえば、「スペインインフルエンザ」において、世界では約4,000万人、わが国では約39万人が死亡)を出しました。こうした「新型インフルエンザ」は、10年から40年の周期で流行してきましたが、次の新型インフルエンザがいつ出現するのか、予測することはできません。なお、過去の例を見ても、流行の季節は冬とは限りません。

(注:これまで一般に、スペインかぜ、アジアかぜ、香港かぜ、ソ連かぜと表記されてきたものについて、このQ&Aでは、それぞれ、スペインインフルエンザ、アジアインフルエンザ、香港インフルエンザ、ソ連インフルエンザと表記しています。)

I-4 なぜ、新型インフルエンザの世界的流行(パンデミック)の可能性が指摘されているのですか。

Answer

I-3に記載があるように、人から人へ感染する新型インフルエンザの世界的流行は10年から40年程度の周期で起こるとされていますが、この数十年間は発生がありません。さらに、現在地球規模で発生している高病原性鳥インフルエンザのウイルスが、新型インフルエンザウイルスに変異することが懸念されています。これらの理由から、新型インフルエンザの世界的流行の可能性が示唆されています。

新型インフルエンザがもし発生した場合、基本的にすべての人が、そのウイルスに対して抵抗力(免疫)をもっていません。そのために新型インフルエンザはヒトの間で、広範にかつ急速に拡がると考えられます。さらに、人口の増加や都市への人口集中、飛行機などの高速大量

交通機関の発達などから、短期間に地球全体にまん延すると考えられます。この世界的流行をパンデミックといいます。

ただし、新型インフルエンザウイルスがどのくらい強い感染力をもつのかについては、現段階では予測できません。

I-5 新型インフルエンザの世界的流行(パンデミック)を阻止することはできないのですか。

Answer

パンデミックを阻止することは非常に困難であると考えられていますが、最近の研究では、新型インフルエンザの発生が初期段階で、その範囲が限られている場合においては、抗インフルエンザウイルス薬の内服と移動制限を行うことで、流行の拡大を遅らせ、その間に次の対策(新型インフルエンザワクチンの開発等)を講じることができるのではないかとされています。しかし、これまで世界中で経験がないことなので、どの程度成功するかは分かりません。初めて発生する地域で、その発生をいかに早期に発見し、適切な対策をとるかが大切です。わが国の対策については、「新型インフルエンザ対策行動計画」に示されています。

I-6 新型インフルエンザが全国的に流行した場合、どのくらいの人々が感染すると予測されるのですか。

Answer

日本政府は人口の約1/4の人が感染し、医療機関を受診する患者数は最大で2500万人と仮定して、対策を講じています。

また、過去に流行したアジアインフルエンザやスペインインフルエンザのデータに基づき推計すると、入院患者は53万人~200万人、死亡者は17万人~64万人と推定されています。しかし、これらはあくまでも過去の流行状況に基づいて推計されたものであり、今後発生するかも知れない新型インフルエンザが、どの程度の感染力や病原性を持つかどうかは不明です。

これ以上の被害が生じる可能性を否定できない一方、より少ない被害でとどまる可能性もありますので、実際の発生状況に応じて柔軟な対応がとれるように準備しておく必要があります。

II. 国民ひとりひとりの予防と対応

II-1 新型インフルエンザの予防はどうしたらよいのですか。

Answer

通常のインフルエンザは、感染した人の咳、くしゃみ、つばなどの飛沫とともに放出されたウイルスを吸入することによって感染します。そのため、外出後の手洗い、マスクの着用、流行地への渡航、人混みや繁華街への外出を控えること(不要不急の外出の自粛)が重要です。また、十分に休養をとり、体力や抵抗力を高め、日頃からバランスよく栄養をとることも大切です。

インフルエンザは容易に人から人に感染するため、他人にうつさないことも重要です。インフルエンザに感染して症状のある人は、病気の悪化や周囲への感染を防ぐために、自宅で休養することが重要です。他人に接しなければならぬ場合は、咳やくしゃみをする際にはティッシュで口元を覆うか、マスクを着用することが重要です(咳エチケット)。

現状では新型インフルエンザは出現していませんが、出現した場合も通常のインフルエンザと同様にこのような感染予防対策に努めることが重要です。また、新型インフルエンザが流行して、外出を避けるべき事態となり、物資の流通が停滞することを想定して、普段から食料品や日用品を備蓄しておくことが望ましいと考えられます。

新型インフルエンザの患者と密に接する機会があり、感染している可能性がある方々に対しては、発症前に抗インフルエンザ薬を内服することで、発症の危険性を抑える予防方法(予防投薬)を実施することも検討されています。

II-2 新型インフルエンザに感染した場合、どのような症状がでるのですか。

Answer

新型インフルエンザに変異することが懸念されている高病原性鳥インフルエンザの症状としては、これまで東南アジアなどでの事例では、発熱、咳など、ヒトの一般的なインフルエンザと同様の症状に加え、下痢を認めた例もありました。また、致死率は60%以上と極めて高く、肺炎が主な死因となっています。

しかし、高病原性インフルエンザウイルスが人から人へ感染する新型インフルエンザウイルスに変異した場合、その症状の程度は、現在のところ予測が困難です。

II-3 新型インフルエンザが発生したらどうしたらよいのですか。

Answer

新型インフルエンザが発生した場合は、感染の機会を減らすために、手洗いを励行する、不要不急の外出や集会を避けるなど、II-1で述べたような予防策を実施することが重要となります。

また、発熱・咳・全身痛などインフルエンザと思われる症状がある場合、事前連絡なく近くの医療機関を受診すると、万が一新型インフルエンザであった場合、待合室等で他の患者さんに感染させてしまう「二次感染」のおそれがあります。まず、保健所等に設置される予定の発熱相談センターに連絡し、都道府県等が指定する医療機関など(発熱外来)を受診してください。都道府県や市町村、保健所から情報が提供されますので、随時チェックするようにしてください。

II-4 新型インフルエンザの治療法はあるのですか。

Answer

インフルエンザの治療に使われている抗インフルエンザウイルス薬が有効であると考えられています。抗インフルエンザウイルス薬については、III-5~7で扱っております。また、予防のためにワクチンも備蓄中です(III-4参照)。

治療薬、治療方法について、最新の知見が発表され次第、厚生労働省のホームページや記者会見などで広く情報提供し、国がとるべきしかるべき対応策について公表してまいります。

III. 国の対策について(ワクチン、抗インフルエンザウイルス薬を含む)

III-1 国は新型インフルエンザの流行に対してどのような準備をしているのですか。

Answer

厚生労働省では、平成17年10月、国民への正確な情報の提供、予防や治療など、その流行状況に応じた対策を総合的に推進するため、厚生労働大臣を本部長とする「新型インフルエンザ対策推進本部」を設置しました。また、政府の新型インフルエンザ及び鳥インフルエンザに関する関係省庁対策会議により、「新型インフルエンザ対策行動計画」を策定し、新型インフルエンザの発生状況備えた具体的な対策を講じることとしています。

現時点での政府がとっている準備として、抗インフルエンザウイルス薬や鳥インフルエンザ(H5N1)に対するワクチン(プレバデミックワクチン)の備蓄、国民への情報提供、鳥インフルエンザが流行している地域への技術支援、新型インフルエンザ発生のシミュレーション訓練等が挙げられます。

III-2 国は新型インフルエンザが流行した場合、どのような対策をとるのですか。

Answer

新型インフルエンザの発生が確認された時点で総理大臣を本部長とした対策本部を設立し、状況に応じて検疫の強化、新型インフルエンザが疑われる患者への入院勧告、医療体制の確保、感染まん延の防止策、不要不急の外出や集会の自粛要請等の対策を講じることとなっています。

III-3 新型インフルエンザにワクチンは効きますか。

Answer

通常のインフルエンザの予防接種は、新型インフルエンザとはウイルスの種類が異なるため、感染防止の効果はほとんど期待できないと考えられています。

新型インフルエンザに対して効果が期待できるワクチンとして、プレパンデミックワクチンとパンデミックワクチンがあります。

プレパンデミックワクチンとは、新型インフルエンザウイルスが大流行(パンデミック)を起こす以前に、トリ-ヒト感染の患者または鳥から分離されたウイルスを基に製造されるワクチンを指します。政府は現在流行している鳥インフルエンザウイルス(H5N1)に対するワクチンをプレパンデミックワクチンとして製造、備蓄しています。

パンデミックワクチンとは、ヒト-ヒト感染を引き起こしているウイルスを基に製造されるワクチンです。プレパンデミックワクチンと異なり、ワクチンの効果はより高いと考えられます。ただし、パンデミックワクチンは実際に新型インフルエンザが発生しなければ製造できないため、現時点で製造、備蓄は行えません。

III-4 政府が備蓄しているワクチンの接種を受けることはできますか。

Answer

現在、政府は1,000万人分のプレパンデミックワクチンを備蓄していますが、プレパンデミックワクチンは、現在の流行している鳥インフルエンザに対するワクチンで、新型インフルエンザに対する有効性が完全に確立しているものではありません。また、予防接種では一定の割合で人体に有害な副反応が出現することが避けられず、不必要な接種は避けるべきと考えられています。そのため、実際にワクチン接種を開始するのは、新型インフルエンザの発生が確認されてからになる予定です。

また、新型インフルエンザが発生した場合、予防の基本は他者から感染を受ける機会を減らす(外出や集会を避ける、手洗いの励行、マスク着用等、II-1参照)こととなりますが、医療従事者や電気・水道等のライフライン従事者など、医療や社会生活の維持に関わっており、新型インフルエンザの感染が拡大している状況においても業務を続けなければならない方々から、プレパンデミックワクチンの接種を行うことを予定しています。

なお、実際に発生した新型インフルエンザウイルスを基に製造されるパンデミックワクチンは、国民全員を対象に考えています。

III-5 抗インフルエンザウイルス薬ほどのようなものがあるのですか。

Answer

新型インフルエンザの治療薬としては、毎年流行する通常インフルエンザの治療に用いられているノイラミニダーゼ阻害薬が有効であると考えられています。ノイラミニダーゼ阻害薬には、経口内服薬のリン酸オセルタミビル(商品名:タミフル)と経口吸入薬のザナミビル水和物(商品名:リレンザ)があります。

III-6 抗インフルエンザウイルス薬ほどのくらい備蓄しているのですか。

Answer

新型インフルエンザの発生に備えて、政府及び各都道府県では抗インフルエンザウイルス薬の備蓄を行っています。

治療薬として、タミフルを政府で1,050万人分、都道府県で1,050万人分、流通備蓄が400万人分の合計2,500万人分、リレンザを政府で60万人分を確保する予定です。(平成19年度中)

(流通備蓄は、通常インフルエンザのシーズン終了時の残存見込み量)

また、予防投与用として、政府でタミフルを300万人分備蓄しています。

III-7 タミフル服用後の異常行動が報道されていますが、鳥インフルエンザや新型インフルエンザにおいても、10歳以上の未成年の患者に対する抗インフルエンザウイルス薬の投与を控えるのですか。

Answer

現在、高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)患者の死亡率は約60%と高く、このまま推移する

と新型インフルエンザ患者の死亡率は通常のインフルエンザと比べて、高くなる可能性があります。そのため、高病原性鳥インフルエンザや新型インフルエンザにおいては、原則的に10歳以上の未成年の患者に対してもタミフルの投与を控える必要性は低いと考えられます。

実際には、発生した新型インフルエンザの重篤度や感染状況と、タミフルの有効性や安全性に関する情報から総合的に判断することになります。

IV. 問い合わせ先

IV-1 新型インフルエンザについて、わからないことはどこに問い合わせればよいのですか。

Answer

新型インフルエンザ等に関する情報は、厚生労働省のホームページに掲載しており、随時更新していく予定です。なお、ご不明な点につきましては、以下の窓口にお問い合わせください。

インフルエンザ等感染症相談窓口

E-mail: influt@npo-bmsa.org

電話: 03-3200-6784 FAX: 03-3200-5209

[↑このページのトップへ](#)

| [厚生労働省ホームページ](#) | [健康](#) | [感染症情報](#) |

資料 5

インフルエンザ等感染症に関する相談窓口（NPO法人バイオメディカルサイエンス、2006年11月10日～2007年3月30日）によせられた新型インフルエンザ（鳥インフルエンザを含む）関連の質問

（ワクチン、抗ウイルス薬など予防と治療）

Q:インフルエンザウイルスに感染した場合、病院は従来のインフルエンザウイルスと新型インフルエンザウイルスの区別が出来て、対応していただけるのですか。（主婦、40代）

Q:今流行しているインフルエンザワクチンは新型インフルエンザに効くのですか、主人が鳥インフルエンザの流行している国に主張しますが、有効なワクチンがありますか。（主婦、40代）

Q:新型インフルエンザに対して通常インフルエンザの抗ウイルス薬の効果はありますか、また、湿度とウイルスとの関係、衣類や食器の消毒についてもおしえてください。（主婦、60代）

（個々人の防衛と備え）

Q:新型インフルエンザに備えてテレビ（NHK,ニュース）などのメディアが食料品をストックするように勧めていますが、そうするべきですか。（無職、男性、40代）

O:新型インフルエンザの流行に対して、テレビなどでは備えが必要と言っていますが、家庭での備えとしては、なにを準備したらよいのですか。（男性、私企業、60代）

Q:新型インフルエンザ流行時に備え、何を備蓄したらよいのですか。（医療従事者、女性、30代）

Q:新型インフルエンザに備えて、飲料水を3週間備蓄するようにテレビで放映されていたが、その必要はあるのですか。（無職、女性70代）

（出現と流行の時期、場所など）

Q:イタリア旅行をしたいのですが、新型インフルエンザの心配はないですか。新型インフルエンザの出現の時期はいつですか。（主婦、50代）

（その他、鳥インフル一般）

Q:新型インフルエンザが恐ろしくて、毎日心配で眠れない状態ですどうすればよいのでしょうか。（主婦、30代）

Q:庭に来る野鳥の糞による人や飼い犬へのインフルエンザの感染が心配です。野鳥にえさを与えてもよいのでしょうか。（主婦、50代）